

 B. 各支部から

千葉県小児保健協会の活動状況

千葉県小児保健協会支部長
千葉大学大学院医学研究院小児病態学
河野陽一

昭和52年（1977年）に千葉県小児保健協会は発足し、今年で設立35年目となる。本会の目的は規約により、「日本小児保健協会の千葉支部であって、千葉県の小児保健に関する研究ならびに知識の普及をはかり、もって小児の福祉を増進すること」と定められており、この目的のために日本小児保健協会のもとで小児保健に関する事業を行っている。発足時の初代会長久保政次先生より千葉大学小児科教授が歴代会長を務めており、それに伴う形で本会事務局は千葉大学小児科（現：千葉大学大学院医学研究院小児病態学）内に置かれている。

当協会は、設立の当初から小児保健に関係のある広い分野からできるだけ多くの方々に参加できるようにという考えのもとに、医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、養護教諭、栄養士、保育士、県衛生部・保健所・県教育庁の保健衛生行政担当者、ソーシャルワーカーなど各職域からの代表理事で構成する理事会を設けている。毎回の理事会では各職域担当理事から活発な意見が提案され、これは現在も変わることはない千葉県小児保健協会の大きな特徴になっている。また、本協会の事業の中で最も大きなものは毎年1回冬に開催される総会だが、プログラムの一般演題をそれぞれの職域からの理事が取りまとめ、総会では関連する演題のセッションの座長を務めている。

千葉県小児保健協会総会は設立当初は招聘した講師による講演会やシンポジウムの形で行っていたが、1991年から会員による一般演題を加え、学術集会の形となった。さらに、第25回総会以降は設定し

千葉県小児保健協会

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院医学研究院小児病態学内

たテーマに沿った要望演題4～5題を設けて、一般演題、基調講演、要望演題という現在の総会のスタイルが確立した。過去に行われたテーマすべての記載は割愛するが、麻疹・風疹混合（MR）ワクチン導入（平成17年）に先駆けた第28回総会「千葉県の麻疹流行抑止に向け、今やるべきこと」（平成15年度）や、発達障害者支援法施行（平成17年）をうけた第32回総会「今、子どもの心に何がおきているのか？」（平成19年度）、アレルギー疾患用学校生活管理指導表導入の年に開催した第33回総会「学校でのアレルギー疾患への対応」（平成20年度）等、その時々々の社会情勢から必要性の高いテーマを選択しており、毎回職域を越えた活発な討論が行われている。総会テーマの変遷には千葉県の小児保健活動の流れそのものが示されているようにも感じられる。

そして今年度は喜ばしいニュースがあった。当協会が後援している「子育て応援メッセinふなばし」（代表者：猪股弘明先生）が平成22年小児保健協会活動助成の第8回実践活動助成を受賞された。受賞理由として、「医師、歯科医師、看護師、保健師、助産師、栄養士など多くの関係職種が子育て支援に関する情報やワークショップの提供により、子育て家庭を応援している。また、参加団体、参加交流により子育てネットワークを広めている。」とのコメントを今年開催された第57回日本小児保健協会総会でいただいた。同活動がさらに発展されるようにこれからも応援していきたい。

最後に、千葉県の小児保健の発展には、多くの役員や小児医療・保健・福祉従事者と行政担当者が貢献されてきた。そのご努力に感謝申し上げます。